

# \* \* イ カ ナ ゴ 情 報 No. 3 \* \*

北海道立中央水産試験場  
後志南部地区水産技術普及指導所

## 調査の概要

2009年5月21日に、今漁期の4月30日から5月21日までに採集していただいた島牧海域の漁獲物標本を指導所に持ち寄り、漁協と役場の皆様、指導所職員、水試職員で体長測定を実施しました。現在までの資源状況と終漁時期の見通しについて検討しましたので、お知らせします。

- ・今漁期は、例年よりたくさんのふ化群が加入か
- ・21日現在30mm前後の群は、6月初めまで漁獲対象に

前報までに報告しておりました、4月の漁期前調査、初漁期調査で確認してきた群（図中の■）は、4月30日で25mm台後半まで成長し、5月21日時点で40mm台前半に達しています。次のふ化群（◆）も5月初め頃に漁獲対象サイズに達し、あわせて漁獲物の主体となりました。これらの群は既に40mm以上に達しているため、今後は徐々に漁獲対象から外れていくと考えられます。さらに、5月半ば頃から、○、\*で示すふ化群が連続して漁獲対象サイズに達しました。これらの群は21日時点で平均30mm前後の大きさですので、一日あたり0.7mmの成長と仮定すると、40mm以上になるのは6月初め頃であり、豊度にもよりますが、その頃までは漁獲対象となる見込みです。

さらに、5月17日以降の標本には20mmに満たない小型魚が現れており（図中の●）、例年の傾向と同様に、漁期中盤以降に加入する最も遅いふ化群が漁獲対象となり始めてきたようです。こちらについてはどの程度の資源規模なのか、はっきりとは判りませんが、現時点でさほどの漁がないようであれば、前述の群（○、\*）が主体のまま終盤に入ると考えられます。

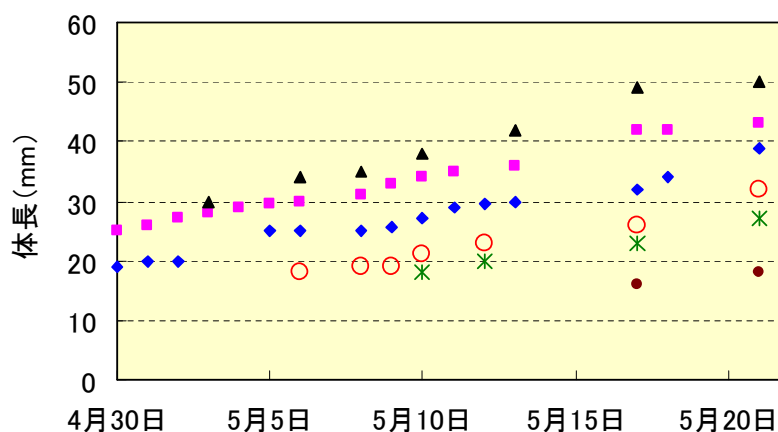


図 体長組成のモードの変化